

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
御船地区

平成28年1月

熊本県御船町

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	施設利用者数(恐竜博物館来館者数)	人/年	31,454	40,000	173,806	確定	○	あり	173,469	H27年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	恐竜博物館新設に併せて、PR活動、観光交流センターやアクセス道路、駐車場整備、モニュメント設置等、総合的な対応により、博物館来館者数が大幅に増加した。
指標2	コミュニティ活動参加者数	人/年	216	400	420	確定	○	あり	515	H27年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	都市再生整備計画事業により整備した各種施設の運営や利活用に向けた管理者や利用者、周辺住民による検討が進められ、目標達成に至ったと考えられる。
指標3	子育て支援センター利用者数(子育てふれあい館利用者数)	人/年	3,401	4,100	7,045	確定	○	あり	7,048	H27年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	子育て支援施設を保健センター等の公共施設が集積する本町役場隣接地に整備した事により、利便性が向上し、利用者増につながったと考えられる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	シンボルロード沿線(役場周辺)歩行者交通量	人/日	平日:402 休日:77	/	平日:853 休日:319	確定	●	/	/	/	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	シンボルロード沿線にふれあい広場、恐竜博物館等が立地し、御船川左岸側にも街なかギャラリーが整備され、沿線全体の回遊性が向上したことが説明できる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
・成果を持続させるための行う方策	恐竜博物館来館者数の増加	・特別展(羽毛恐竜の世界展 ~羽毛をもった恐竜と鳥類への進化~ 7月18日~9月6日)の実施をはじめ、恐竜をモチーフとしたものづくりを行う『わくわく教室』、月替わりで様々なイベントに参加できる『パレオプログラム』等のイベントを行っている。また、イベントに参加し、集めた単位に応じて称号を授与する『化石はかせ認定プログラム』を行っている。	・開館時(昨年度)の来館状況には劣るものの、今年度は12月末現在で約114,000人が来館されており、来館者数は順調に推移している。	今後も、来館者数の維持・増加を図るため、施設の魅力化、リピーターの獲得、PR活動の展開等に努める必要がある。
	街なかギャラリーの有効活用	・街なかギャラリーにおいては、作品展示会『スプリングフェスティバル』や『しらかべ日和』等のイベントを季節ごとに開催している。また、女性に喜ばれるヨガ・エッセ教室をはじめ、子供から大人まで参加できる英会話教室等のお客様参加型のイベントを一年を通して行っている。	・町民、事業者、各種団体による各種イベントの開催等により、来館者数は前年度を上回る盛況ぶりである。	一過性のイベント開催だけでなく、日頃から地域住民、町民の集いの場となるような仕組みを展開していく必要がある。
	子育て支援施設(つどいの広場)の有効活用	・『子育てふれあい講座(毎月1回開催)』をはじめ、『ベビーマッサージ講座』や『ホームスタート講座』等を一年を通して行っている。また、初めてつどいの広場を利用する人を対象とした『ファーストサロン(親子お見知り会)』を開催している。	・一年を通じ多くの親子が利用しており、子育て世代間の交流・憩いの場となっている。また、施設主催による各種イベントの開催により、施設利用者数は順調に推移している。	更なる活用に向けて、利用者のニーズを的確に把握し、高齢者も気軽に利用していただけるような、多世代間の交流の場としての環境づくりに努める必要がある。
	各種公園(ふれあい広場、城山公園、町民グラウンド等)の有効活用	・ふれあい広場においては、地域住民・各種団体主催のイベント等を開催している。また、学生によるボランティア清掃活動及び公園内の植栽管理(剪定や除草等)、清掃(トイレやゴミ拾い等)を実施している。 ・町民グラウンドや城山公園においては、町民スポーツ大会の開催や桜祭りの開催等、各種イベントを開催している。	・ふれあい広場においては、子供たちから『恐竜公園』という愛称で親しまれており、一年を通じてたくさんの親子連れが憩いの場として利用されている。 ・各種公園施設は、地域のレクリエーション拠点として、また、憩いの空間として町内外の大勢の方々に利用されている。	今後も愛着を持って利用し続けていただくため、地域住民の皆さんとともに各種公園施設の適正な整備と維持管理に努める必要がある。
	町民参加によるまちづくり	・都市再生整備計画事業における実績を参考に、町内での各種事業実施にあたっては、計画段階から町民、関係者の意見を確認し、事業内容に反映する等、町民との協働によるまちづくりを継続的に展開する。	・町で計画している各種事業において、計画段階から多くの町民が参加されており、町民と行政が一体となったまちづくりへの取り組みが行われている。	町民との協働によるまちづくりを継続的に展開する必要がある。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	観光振興に向けた総合的な取り組みの展開	・観光振興計画を策定中(平成27年度事業)である。	・観光振興計画の策定にあたっては、町民からの様々な意見・提案を取り入れながら計画の策定に取り組んでいる。	本町における観光振興に向けて、観光振興計画に基づき、商工観光課を主体に、観光事業者、町観光協会、商工会等との連携を図る必要がある。
	観光交流センターの有効活用	・観光交流センターにおいては、ゴールデンウィーク、夏休み期間中におけるおもてなし、地域の物販や商工業者による露天、博物館来場者を対象とした恐竜缶バッジづくり体験等の様々なイベントを行っている。また、案内人(コンシェルジュ)を設置すると共に、町内の様々なイベントのPRを行っている。	・観光交流センターの利用者数は順調に推移しており、さらには、町内の観光施設の来訪者も増加しつつある。	更なる活用に向けて、利用者ニーズに応じたサービス内容の改善等を行う必要がある。
	城山公園の安全性向上	・今回計画期間内に実施できなかった城山公園におけるがけ対策について引き続き検討する。	・安心で快適な憩いの空間の形成に向けて、引き続き関係機関と連携を図りながら、協議、検討を行っている。	安全性向上と合わせて、さらに利用しやすい環境整備を展開していく必要がある。
	持続的なまちづくり活動をけん引する地域住民・町民主体によるまちづくり組織の充実・強化	・既存のまちづくり団体をはじめ、商工会、観光協会を中心とした町民主体による担い手との連携により、まちづくり活動を展開する。	・地域住民やボランティア団体、各企業による道路や公園等の清掃・花苗植え・除草作業などの参加人数が増加し、また、住民主体のイベント等が多数開催されるなど、まちづくり活動が活発に行われるようになった。	町民との協働によるまちづくりを継続的に展開する必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項